

# 放射線科画像診断報告書

(診療情報提供書)

患者ID	■■■■■	検査	MR	回復
NAME	■■■■■	依頼医	院内 循環器内科	■■■■■
年齢	87Y	放射線科	先生	
性別	F	備考	住所・電話番号・診断名	
検査日	2011年06月08日		紹介目的・既往歴・家族歴	

## <臨床情報>

L1の圧迫骨折にて入院  
1ヶ月たっても痛みが改善しない  
L4、5のヘルニアのせいか下腹筋力の低下もあり

## <画像所見>

### 胸腰椎MRI

第1腰椎はT1低信号/T2高信号を呈して認められ指摘されている圧迫骨折後の所見と考えます。第1腰椎/第2腰椎間椎間板は後方に膨隆して認められ脊柱管を狭窄しています。T2の高い信号から強い浮腫性変化を反映した所見と考えます。第2腰椎頭側の終板に沿うT1での信号低下が認められ伴う浮腫性変化を反映した所見と考えます。

第4腰椎/第5腰椎間椎間板に強い後方への膨隆が認められ左右側方向にも膨隆を呈しています。所見に伴い脊柱管は著明に狭窄して認められ左右神経孔も強い狭窄像を呈しています。神経症状と照らして下さい。

第5腰椎/第1仙椎間椎間板にも左側優位に左右側方向への隆起が認められ神経孔を狭窄しています。

右腸腰筋内部にT2で不均一な高信号領域が認められ右腸腰筋膿瘍を疑わせる所見と考えます。所見は4月20日に比べて増悪しています。CRPの所見加味して重点フォローアップとして下さい。

## <Impression>

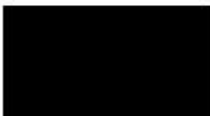
第1腰椎に圧迫骨折の所見が認められています。同部の尾側への椎間板の膨隆に伴い脊柱管は狭窄されています。

第4腰椎/第5腰椎間椎間板に正中方向/左右側方向への強い膨隆が認められ椎間板ヘルニアの所見と考えます。第5腰椎/第1仙椎にも椎間板ヘルニアの所見が認められ同部位では左右神経孔を狭窄しています。

右腸腰筋内部にT2で不均一な高信号領域が認められ右腸腰筋膿瘍を疑わせる所見と考えます。所見は4月20日に比べて増悪しています。CRPの所見加味して重点フォローアップとして下さい。

別紙の参照画像をご覧下さい。

患者ID  
患者名  
NAME



検査日 2011年06月08日  
依頼医 院内 循環器内科  
備考

回復

年齢 87Y

性別 F

検査 MR

参照画像

